

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会

令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日）

事業報告書

1. はじめに

昨年度につき令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年でありました。京都連盟はこの対策委員会により計8回の対応方針を発出し、スカウト活動が安全に、しかし停滞することなく展開できるよう対応してきました。

振興会賛助会員のご篤志により様々な活動を支援することができました。厚く御礼申し上げます。

スカウトたちは“Scouting Never Stops!”の合言葉のもとに、対面での活動を自粛すべき代案として、ICT（情報通信技術）を活用したオンライン集会在普及し、家庭に居ながらにしてスカウト活動に参加できる可能性を広げました。ビーバー隊やカブ隊では、それぞれが作った料理を発表したり、合奏を試みたり、保護者も活動の様子を知ることができ、新しい試みとして好評です。

また、毎年10月に開催される“ジャンボリー・オン・ジ・インターネット”は、インターネット上で世界のスカウトと対面し、お互いに少しの会話と身振り手振りで、歌の交歓やプログラムの紹介などを通じて、スカウトの連帯感が地球規模で広がっています。

実技を伴う救急法講習会もオンラインで2回実施しました。限られた条件下でも創意と工夫で活動を愉快地に展開しています。

一方、活動の基本である“野外活動”は慎重にかつ大胆に取り組んできました。少人数で1班しか編成できない隊が合同で、8月に京都スカウトサマーキャンプを実施しました。静原キャンプ場で5泊6日のところ、あいにくの豪雨のため1泊で中断となりましたが、今夏、分散開催される第18回日本スカウトジャンボリーへの布石となりました。

また、2020（令和2）年度につき日本連盟提供の文部科学省委託事業「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、計17回実施され、276名の児童・年長児を招きました。「ボーイスカウトと遊ぼう」を標榜し、コロナ禍で家に閉じこもりがち子どもたちを、外遊び・仲間遊びに誘う点が社会から支持されています。団・地区の自前のプログラムを一般に公開する仕組みとして、さらに普及することが期待されています。

青年層にも活動の輪が広がっています。現在、大学ローバーは同志社大・京都大・京都外大・立命館大の4校ですが、京都産業大学の復活の見通しがつきました。スカウト加盟の受け皿はビーバー・カブ部門に限らず、全部門で歓迎し活性化を目指す所存です。

これらの社会的な期待と、さまざまな関係者の努力にもかかわらず、加盟員登録数は4月1日現在2,050人（前年比114人減）となりました。新たな環境に適応して存在しつづけるために、様々な団体や仕組みとの連携をはかって、さらなる工夫と努力が求められています。

当該会計年度は、維持会費収入が 2,220 千円と前年度比－90 千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、スカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

- － 事業費として、総額 1,300 千円を支出した。
京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。
- － 新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言およびまん延防止対策発出に伴い、日本連盟・京都連盟から「対面する会議・集会などの活動を延期または中止」の通達により、海外派遣、各種研修、行事等、一部の事業を自粛せざるを得なかった。
- － オンライン会議やリモート講習会等の非接触型活動を推進するため、事務局会議室にカメラ・マイク・モニター等の設備を充実させた。
- － 広河原野営場、静原キャンプ場に WiFi 設備を新設し、インターネット回線を通じて場外との携帯電話の使用が可能となった。

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
期日	6 月 21 日延期 8 月 28 日延期 11 月 28 日実施	10 月 17 日	11 月 7 日	3 月 5 日 次年度に延期
会場	宇治市中央公民館	洛西 境谷会館	舞鶴市 中総合会館	下鴨神社 公文所-
参加者	20 名	27 名	5 名	新型コロナウイルス感染防止のため 延期

(参考) ウッドバッジ研修所等の実施状況

名称	WB 研修所 スカウトコース 京都第4期	課程別研修	
		CS 課程 京都第4回	BS 課程 京都第2回
期間	5月2日～5日延期 7月22日～25日実施	6月27日	10月24日
会場	静原キャンプ場	京都テルサ	京都テルサ
参加者	新型コロナウイルス感 染防止のため延期ののち 実施。11名参加。	3名	6名

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町27番地

(当法人所有：山林22,559平方メートル、原野521平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

日本ボーイスカウト京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4月18日	15人	イベント/財産管理委員会
2. 行事	6月6日	30人	京都西ライオンズクラブ
3. 隊キャンプ	6月19日～20日	6人	京都第23団
4. 夏季整備作業	7月18日	14人	イベント/財産管理委員会
5. 隊キャンプ	8月11日～16日	40人	京都第23団
6. 冬季整備作業	11月28日	16人	イベント/財産管理委員会
合 計	12日	121人	延べ327人日

■このほかに、指導者養成委員会(4, 5, 7月)、82団(9月)、47・68団(2月)、38団(3月)の予約があったが、新型コロナウイルス感染防止のためキャンセルとなった。

(オ) 事業実績

広河原野営場建物の減価償却費80,730円・固定資産税4,300円が主な費用実績である。

また、キャビンの内装改修に修繕費579,337円を支出した。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について
利用状況がはかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業：「連携」

(ア) 趣旨

ボーイスカウトの指導者が、テーマを設けて研修する催しに青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ) 事業実績

スカウト運動活性化セミナーとして、7月18日は組織強化をテーマに、また10月3日は保護者目線での募集につながる内容をテーマに、オンラインで開催した。

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業：「イベント」

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

- － オーストラリア短期留学派遣、韓国京畿南部連盟受入、日韓スカウト交歓計画交流プログラムが計画されたが、新型コロナウイルス感染防止により、中止となった。
- － ジャンボリー・オン・ジ・インターネット(JOTI)／ジャンボリー・オン・ジ・エア(JOTA)
世界スカウト機構が主催する公式国際行事で、10月17日に全世界でインターネットやアマチュア無線を利用して、スカウト同士が国境を超えた情報交換と友好を深めた。京都からは11こ団143名が参加した。
- － 海外派遣に必要な技能章である「世界友情章」の講習会を実施、12名のスカウトが受講した。来夏に韓国で開催される第25回世界スカウトジャンボリーへの機運を高めた。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

- 一般青少年を対象にした事業は、スカウト仲間を増やすためにも、各地区・各団で工夫したプログラムが実施され、この一般向けの案内のためにホームページを活用した。
- － 全国防災キャラバンはコロナ禍により中止、またはパネル展示で対人接触を避ける形で実施した。
 - － 昨年度に続き、日本連盟提供の文部科学省委託事業「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」に各団が独自のプログラムで展開した。全24事業が計画されたが、コロナ禍により17回実施し一般児童ら276人の参加を受け入れた。
 - － 全国車いす駅伝競走大会はコロナ禍により開催中止となったが、全国都道府県対抗女子駅伝競走大会は1月16日に開催され、コースの沿道整理員をスカウトが務めた。

(ウ) 環境まち美化活動支援

例年各団が春と秋に奉仕してきた「みどりの募金」活動は自粛となり、京都市「まち美化運動」に協力してきたが、「世界の京都・まち美化市民総行動」も中止となった。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業：「広報」

(ア) ホームページの充実により、組織内外のコミュニケーションを促進する。

① 一般の子どもや保護者が参加可能な団主催「スカウト体験と説明会」や地区主催「ビーバーランド」「カブラリー」等、スカウトの日（ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日）等について、ホームページのほかに、「京都連盟 LINE 公式アカウント」により告知し、地域の青少年の参加を促した。

② ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行った。

③ ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼した。

④ OB の復帰受け皿としての「サポーター制度」を確立し、ホームページを通じて公募した。

(イ) 事業費実績

主な事業費は、ホームページ運営改革費（396,000円）を支出した。

(6)財源の確保（維持(賛助)会費の入金状況）

維持(賛助)会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
維持会費収入額	2,470 千円	2,560 千円	2,420 千円	2,310 千円	2,220 千円

当該会計年度は、維持(賛助)会費収入が 2,220 千円と前年度比－90 千円となりました。

引き続き、役員の方には、21 世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上